イ チ ニ ノ

『ランダバウト』

作：前島宏一郎

20180914 完稿

『ランダバウト』　登場人物表

A	木馬織夏（きま・おりか）	（女）
B	木馬大師（きま・だいし）	（男）
C	木馬心の葉（きま・このは）	（女）
D	木馬冬子（きま・とうこ）	（女）
E	木馬大二郎（きま・だいじろう）	（男）
F	安勝下（やす・かつおり）	（男）
G	木馬サク（きま・さく）	（女）
H	木馬大河（きま・たいが）	（男）
I	安ハルカ（やす・はるか）	（女）

その他の登場人物（※を除き全身白）

一群
サーカス団のような色彩の一団　※
女子１・２
先生
教官
面接官１・２
影
神様　※
仏様　※
ご先祖様　※
生と死を考える会会員１・２・３・４
看護師１・２・３
隣人１・２
鮮やかな色を纏った者　※

OP.

（何人かがゆっくりと舞台上を回り始める。
小さなつぶやき。
「MERRY」と聞こえる。
だんだんと人が増えていき、「MERRY」の声がリズムよく響いてくる。）

（A、舞台中央に立つ。「パン！」と大きく手を叩くと、回っていた人たちが止まり、屈む。）

A　みなさん！こんにちは！

（屈んでいる人々、「こんにちはー！」と返事しながら去る。）

A　今日はようこそお越しくださいました。心から歓迎いたします。
みなさん。これは、私が、人生を楽しく生きるための物語です。
陽気に、ポップに、お祭り気分で生きるためのそんな物語です。
だから私がめんどくせーなーとかいやだなーとか見たくないなーとかいうことは一切見る気はありません。そこんとこよろしくお願いします！

さて！あたしの夢は！
白馬の王子さまに逢うことです！
お馬さんが好きです。
競馬には興味ないけどイケメンなお馬さんは好きです。
王子さまはイケメンでなくてもそこそこ馬顔でなければまあいいです。

（音楽。玩具の兵隊のようなサーカス団のような色彩の一団が登場。大音響を鳴らしながら円を描いて練り歩く。パレードのよう。
一群のなかに白馬に乗った王子さま風の人が現れる。
後に音楽ストップ。一群もストップ。）

B　王子さまだよ！！

（間）

A　…アンケートとりまーすはーい。これはイケメンでしょうか？イケメン。どちらかというとイケメン。微妙。どちらかというとイケメンでない。イケメンでないっていうかブサイク。はーい。これは馬顔でしょうか？馬顔。どちらかというと馬顔。微妙。どちらかというと馬顔でない。馬顔でないっていうか笑顔。まあ。笑顔だ。
A　きらーん。（笑顔を振りまく）
B　はい！（「パン！」と手を叩く）

（照明が交差点を描く）

A　私は今人生の交差点にたっていまーす！ここでー、右を選ぶかー、左を選ぶかー。つまりこれは、妥協するかー、リスクを取って夢を追うかー。

B　おい誰が妥協だこら。

A　王子さまなの？

B　王子さまだー！

（一群、「ドン！」と太鼓等を叩く。）

A　ホントにホントに王子…

B　王子さまだー！！

（一群、「ドンドンドン！」と太鼓等を叩く。）

A　何の王子さま？

B　キミの王子さまだ！

A　星の王子さま？

B　それがよければ星の王子さまだ！

A　私が思えば私だけの王子さま？

B　お！う！じ！さまだだだだだ！

（一群、Bのセリフに合わせ太鼓等を叩く。）

A　えー…勇気を持って選びます。…せーの…

C声　おねーちゃーん！

A　ん？（向こうとしていた方向と反対方向に振り返る）

（一群、退場。）

A　えっ？…

C　おねーちゃーん。ごはーん。

A　俺の背後に立つな。

C　え、なにそれ。

A　…（手でCを制する）

（間）

C　おねーちゃんごはんいらないってー。

A　ノンノンノン！！

（間）

A・C　（両手を合わせる）いただきまーす。

（舞台中央に食卓。朝食の様子。D・E・F・Gが食卓を囲む。そこにA・Cが入ってくる。）

D　なにやってんのおりか。
E　ゆめぴりか。
A　うーい。
F　いちほまれ。
C　牛乳はー？
G　いやーどーかなー？
D　ごめん、今日ない。
A　…（着席）
C　マジか。
E　ねえ正解は？
G　いや、ちょっと待っていま迷っとんの。
D　ゆめひたち。
E・F・G　うえーい。（「マジかよ」のリアクション）
（A、食べながらゆっくりと周りを見回す。）
F　絶対いちほまれだと思った！
E　いやー甘みが違うでしょ甘みが。ねえばあちゃん。
G　今日の漬物うまい。
D　でしょう？過去最高。
E　もうごはんはいいんかい。
F　このはちゃんは？
C　やわかい。
D　ごめんそれは失敗。
G　冥土の土産。
E　またそれかい。

D　人生、山あり谷ありだから。
A　…
E　今日帰り遅くなるわー。
F　あ、僕も。
G　それどういう意味？
D　そのまんまの意味だよ。
E　聞いてる？
C　ごちそうさまー。
F　今日送別会なんすよ。
G　あらあら。
E　このはは？
D　いいときも悪いときもあるってこと。
G　いつもおいしいといいのにねえ。
C　わからん。
F　おっと僕もそろそろ。
C　いってきまー。
D・E・F・G　気をつけてねー。
（A、「パン！」と手を叩く。一同ストップ。）
A　…（ゆっくり立ち上がる）「気をつけてね」…
そう。気を、つけて。気をつけていれば。
気をつけてさえいれば、ぶつからない。
よくできてるな、と思う。

（D・E・F・G、車を運転するポーズで回り始める。）

A　わたしたちは、家族です。
いつも回っています。
気をつけて、いるんだ、と、思う。
だから、ぶつからない。
今日も、平和です。
陽気で、平和な、一日です。

（D・E・F・G、「カッチ、カッチ」とウインカーを出して左折、舞台から退場。）

C　なんだそれ。

（一群、「ラーンダランダ、ランダバウト」と小さくつぶやき始める。）

A　信号もなく一時停止もない。
そして、それでもぶつからない。
まるで、わたしの家族のようだ。

一群　ラーンダランダ、ランダバウト！！

A　だから、わたしは、平和です！！

（間）

C　…なんだそれ。

一群　ラーンダランダ、ランダバウト！！

（音楽。オープニングテーマ。）

（役者紹介）

S.1

声　おじいちゃんはなくなりました！チーン！

一群　おじいちゃーん！！

（中央にBが横たわっている。A・D・E・G・H泣き崩れている）

C　…（白けた目で家族を見ている）

（C、「パン！」と手を叩く。泣き声止まる）

C　私は全然悲しくありませんでした。家族の死ははじめてだったけど、あーこんなもんかなって。おじいちゃんだし。年だし。おじいちゃんっ子ではなかった気もするし。でも、おねえちゃんをはじめみんな泣いてた。なんだか白々しい。

（Eを中心に「さよ～ならおじいちゃ～ん」という謎の歌を歌いながらBを担ぎ去っていく。）

C　でも白々しく思う自分がヘンなのかとかそんなことを思ったときに、何かのスイッチが入りました。

（C、襖を開け、部屋の中に入り、襖を閉めるポーズ。閉めた瞬間にゲームミュージック風の音楽が鳴る。後に激突するような音。）

C　リセット。

（再び音楽。すぐに激突するような音。）

C　リセット。

（再び音楽。曲がスローになる。A登場。）

C　おねえちゃんおねえちゃんおねえちゃん。

A　このは（Cと手をつなぐ）。

C　おねえちゃんおねえちゃんおねえちゃん。

A　このは。

（Cストップ。A、Cを眺めるように離れる。）

A　このは。妹です。

A・C　ひたすらビビリでコミュ障で、

周りも私も何考えてんだかわからない。

そんな私がちょっとキライで。

A　そんなこのはがちょっと可愛くて。

可愛いなと思った次の瞬間、いつの間にかおとなになって
て。

（音楽が「じゃがりこ面接」風に変わる。女子１２が
口三味線で登場。）

女子１２　はいツイキャスとラインライブ２元中継ー！
C・女子１２　いえーい！

（Aスマホを構え回り始める。以下C・女子１２はA
のスマホに向かって。）

女子１　茨城弁面接ー！！
C・女子２　いえーい！！
女子１２　３・２・１、はい！
声　嬉しくて！
C・女子１２　ごじゃっぺが！！
声　悲しくて！
C・女子１２　いがっぺよ！！
声　テンション上げて！
C・女子１２　でれすけが！！
声　出会い頭に！
C・女子１２　いやどうも！！
声　ぶっけたね！
C・女子１２　青なじみ！！

声　どかしなさい！
C・女子１２　それいしゃれ！！
声　腹が立ったら！
C・女子１２　いじゃけっことー！！
声　まあ落ち着いて！
C・女子１２　しゃーあんめー！！！

（C・女子１２、爆笑。）

（学校の帰り道の様子。３人回るように歩く。）
（Aは離れてスマホの動画を眺めている様子。）

女子１　え？どうだった昨日の？
女子２　結構見てたんじゃね？
C　３０人越えー。
女子１　マジ？
女子２　ウケる。
女子１　ラインも結構見てたっしょ？
C　やっぱ絵ヅラいいよね。
女子２　あんたの顔？
女子１　そうそう、いろんな意味で！
女子２　ちょ、なにそれー？
女子１　でもやっぱこのはだよね。
女子２　そうそう。
C　だっしょー？

女子２　何があった？
Ｃ　なんもねーよー。
女子１　いや何もなくてそれはおかしいでしょ？
女子２　本性？
Ｃ　本性。
女子１２　まじかー！
女子２　じゃさ次何やる？
Ｃ　納豆スプラトゥーン。
女子１２　死ぬ。
Ｃ・女子１２　あっはっは！

（女子１２ストップ）

Ｃ　ダン！（襖を開けるポーズ）
Ａ　！？このは？
Ｃ　…おりか。
Ａ　……え？

（Ｃ、ゲームのコントローラーを構えるポーズ。）
Ａ　おじいちゃんの死に流した涙も乾かぬうちに、
スイッチインしたあの日のことは、
よく覚えている。
Ｃ　リアルスマブラー！！

（Ｃの声とともに女子１が女子２にパンチ。炸裂する瞬間にストップ。あわせてＡも殴られているポーズ。）
Ａ　このはのパンチがゴングになって、
あたしとあたしの妹は、
おりかとこのはになりました。

（女子１２動き出す。Ａ・Ｃも同様に動く。女子１２退場。）

Ｃ　おりか！
Ａ　このはー！
Ｃ　おりかー！
Ａ　このはー！
Ｃ　おりか！
Ａ　このは！
Ｃ　おりかっ！
Ａ　このはっ！
Ａ・Ｃ　だから！私は！嫌いになった！

（Ａ・Ｃ、ケンカしている風からお互いの名前をノリノリで呼び合う風に変化。円を描き始める。）

Ｃ　おりかっ！

A　このはっ！
C　おりかっ！
A　このはっ！
C　私は！
A　このはっ！
C　回って！
A　このはっ！
A・C　最適車間距離見つけた！
今思えばこれが私たちの
始まりだったのかも、右回りで
安定走行。アクセルは！
踏み込まない踏み込みすぎない！
ハンドルは約３０度。安定してれば回っていける。
スピードは約１５キロ。安定してれば回っていける。
カーステはサーカスの音。安定してれば回っていける。
優先は先に入ってる車。安定してれば回っていける。
どこまでも行けるいい天気。
どこまでも行ける車間距離。だから！
A　あたしは！
C　おりかっ！
A　回って！
C　おりかっ！
A・C　キライで！そしてぶつからない！

（A・C、回転止まる。）

A・C　それが、私たちの、約束だった。

S・2

先生声　木馬さんどうぞー。

（先生声とともにA退場。先生とD登場して学校机・椅子を配置。）

D　先生、お世話になります。

先生　このは、どうした？

C　えっ？

D　早くすわんなさいよ。

先生　単刀直入に申し上げます。どぅえーい！

D　どぅえーい！（つられる）

先生　ってほど成績落ちてます。ランク下げも考えるべきですねー。

D　そうですか。

D・先生　どうする、このは？

C　…

先生　無理はしないほうが。

D　無理はしないほうが。

D・先生　無難に。

C　無難！？…って、何だそれ。

（先生退場。C・D少し離れて円を描きながら歩く。）

D　このは。

C　…

D　お茶でも飲んでこうか。

C　…

D　期間限定のなんとかってあるのよほらあまーい。

C　…あまーい。

D　なに、落ち込んでんの？

C　…別に。

D　大学なんてね、どこへ行くかじゃないの。そこで何をするかだから。

C　…そらそやね。

D　でしょう？だから、お母さんからすればこのはがこうやって無難に進学してくれるだけでOKなわけ。

C　…

D　あまーいの。

C　いい。（Dを追い抜く。）

D　このは。

C　…

D　…心配いらないからね。

C　…

D　大丈夫。

C　無難。

D　えっ？

C　大丈夫。

D　…そう？

C　大丈夫だって。

C　私が神様だったら。

A　なんでこんな家族にしたんだろうと、悩みます。

A　悩みます。

（D回り始める。Cは座り込んでゲームをするポーズ。）

C　母の声はまるで聞いたこともない外国語で。

A　妹の声はまるで初対面にように不愉快で。

C　つまり母は会ったこともない南の方のアスリートで。

A　つまり妹はゲームで何度話しかけても同じ言葉を言う村人で。

D　やあ、ようこそこの村へ、楽しんでいってね。

C　なんかものすごい情熱で話してるけど全然わからず、

A　どんなテンションで繰り返してるのか全然わからず、

A・C　（A：おりか／C：このは）にはちんぷんかんぷんで。

A　ちんぷんかんぷん。

そう。ちんぷんかんぷん。

だいたいちんぷんかんぷんって何さね。

ちん、ぷん、かん、ぷん。

（D、「ちん、ぷん、かん、ぷん」とつぶやき始める。）

A　だんだん文章の文字がぐにゃってきて、

ゲシュタルトー。

ゲシュタルト崩壊。

（一群、「ちん、ぷん、かん、ぷん」とつぶやきながら回転に加わる。D退場。）

A　やっぱり私の脳みそは、暇さえあればゲシュタルト。

一群　はいゲシュタルト！

A　ゲシュタルト！

ゲスっゲスっゲスゲシュタルト！はい！

一群　ゲスっゲスっゲスゲシュタルト！（以下繰り返し）

A　ひたすらビビリでコミュ障で、

周りも私も何考えてんだかわからない。

そんな私がちょっとキライで、

そんなこのはがちょっと可愛くて。

可愛いなと思った次の瞬間、いつの間にかおとなになって

おねえちゃんおねえちゃんってべたべたしてたあの顔はくっそムカつく顔になって

べたべたって何やねんって。

（一群、「べたべた」も口にする。）

微妙に高校デビュー成功してふわふわな感じとかがくっそ自分と一緒で

ふわふわって何やねんって。
（一群、「ふわふわ」も口にする。）
このはに映って見える自分がブサイクにしか見えなくて、
彼氏に見せてる笑顔も会社で見せている笑顔も
（にっと笑ってややストップ）
一群　くっそきらきらな、村人。
C　きらきら。
リセット。
（照明変化。C・一群退場。）
A　次の瞬間、私はひとりになる。
ゲシュタルト崩壊の果ては、無難な世界。
母が、いて、父が、いて、祖母が、いて、
姉がいなくて妹がいて、弟がいて、姉の旦那がいて…
私は、ひとり。
特に、何もない、
何もない、けれど。
なんか、疼く。
（C登場。Aと対称に回り始める。）
C　駅を降りたらホントは車か自転車がないとキツい距離。
てくてく歩くも見慣れた風景いつもと変わらないこの街。

それでも変わってほしいと思うか変わらないでほしいのかって。
A　ぐるぐるしながら私はてくてく歩いて帰ってるてくてく。
C　てくてく。
A　てくてく。
C　てくてく。
A・C　てくてく。
A　てくてくってなんやねんって。
C　ゲシュタルト。
A・C　ゲスっゲスっゲスゲシュタルト！
A　ゲシュタルト！
C　ゲシュタルト！
A・C　ゲスっゲスっゲスゲシュタルト！
C　ただいまー。（ドアを開けるポーズ）
（Cと対称の位置にH。）
H　！（Cの姿を見ると足早に去る）
C　…認めたくないものだな。
（C、運転ポーズで回転し退場。入れ替わりでH運転ポーズで入ってくる。）

S・3

（街頭の様子。H、ひとり佇んでいる。）

H　駅。

僕は帰り道、この街角に立って、小さく拍手を送り続ける。

（小さく拍手しながら）

今日も一日、ほんとうにお疲れ様。

僕にはきっとわからない、苦労がたくさんあったでしょう。

僕にはきっとクリアできない、壁を乗り越えてきたのでしょう。

ほんとにすごい。

ほんとにすごい。

（H、運転ポーズで回り始める。後に対称の位置にA登場。）

A　たいがです。弟です。虎のように凛々しくなるようにと名付けたとかなんとかだけど、とっても名前負けまくりです。ご覧のとおり、引きこもり系でもちっとちゃんとしろよ的な。

（H、Aのセリフ中に曲がり退場。後に教官を助手席の位置に伴って登場。）

A　この前も何のサイトを見てるのかと後ろから覗いたら。

（A・H・教官ストップ。）

A・H　「生と死を考える集会」。

（A・H・教官再び回り始める。）

A　っておいおいちょっとヤバイでしょ。でもいいやつ。このはは苦手だけど、たいがはいい。馬顔だけど。

（A退場。G・H、椅子に座る。）

教官　はい、お疲れ様。

H　ありがとうございました。

教官　右折のとき大回りしすぎるんだよね。気ぃ遣いすぎなの。

H　すみません。

教官　まー安全運転なのはいいことね。

H　はい。

教官　木馬さん。

H　はい。

教官　怯えてちゃダメよ。運転は、丁寧に、自信をもって。

H　はい。

教官　人の顔色気にして生きてんでしょ。

H　えっ？

教官　自信は顔に出るんだから。ほら、シャンとして！（Hの顔をぐにゃぐにゃする）

H　うわっ！

教官　To be or Not to be。

H　…

教官　はい。

H　…え…ノット、トゥー、ビー。

教官　おバカ。

H　すみません。

教官　何のために生きてるのか。

H　…

教官　はい。

H　わかんないです。

教官　教えてあげる。

H　…

教官　信じる？

H　…

教官　ん？

H　…信じます。

教官　よろしい。何のために生きてるのか。

H　はい。

教官　そんなものはね、死ぬまでわからなくていいの。

（教官、運転ポーズで退場。）

H　勇気。自信。なんだか、そんなものは、死ぬまで手に入らないと思ってた。

でも、手に入らなくてもいいんだ。

そんな、勇気が湧いた。

（面接官１２が運転ポーズで登場。）

面接官１２　でも運転は、一寸先は闇。

H　そう、（運転ポーズで回り始める）一寸先は闇。

だからどこまでも安全に。

それでも。

小さな勇気さえも、卑屈へと変わってしまう。

（Hと面接官１２、向かい合って座る。）

面接官１　はいこんにちはー。

H　…（会釈）

面接官２　はいよろしくおねがいしまーす。

H　（小さな声で）よろしくお願いします。

面接官１２　はあ？？

H　…よろしくお願いします！

（面接官１２、音楽に合わせラップ風に。）

面接官１　どうして弊社を選んだのですか？

Ｈ　どうして閉鎖的で偉そうなの。
面接官２　ヘイ！大きな声で言おうぜ！
Ｈ　はい！恐ろしくて胃が痛い。
面接官１　志望動機は？
Ｈ　死にそな動悸。ばくんばくん。
面接官１２　ばくんばくん！
面接官２　座右の銘は？
Ｈ　自由な御社のしゃふ！（噛む）
面接官１２　ふっ（声を押し殺して笑う）。
面接官１　日本列島改造論についてどう思いますか？
Ｈ　自分の劣等感の異常に、どうしたらよいか。
面接官２　働き方改革について、どう思いますか？
Ｈ　ハライタがたいがい腹痛が、同時に襲ってくる。
面接官１　自己ＰＲを。
Ｈ　極度の緊張。
面接官２　意気込みを。
Ｈ　尻込みで。
面接官１２　不採Ｙｏｗ－！

（面接官１２、運転ポーズで回転、後にＨセリフ中に順に退場。）

Ｈ　自己肯定感の低さはもちろんわかっているけれど、やっぱり卑屈な自分がいる。自分なんかいたって仕方がない。

Ｈ　（Ｈ回り始める。対称の位置にＡ。）
世の中どこにも自分の存在を褒めてくれる人なんかいない。
世の中どこでも自分は主人公になってもおかしくないでしょう。
でも結局は。
イケメンが勝つ。
ステータスが勝つ。
イケメンで高収入なら勝つ。
もっと言えばイケメンが高収入につながる。
卑屈だ。
わかっているけど卑屈だ。
でも事実だ。
たいが！
！…（歩きを早める）
なんだよ逃げんなよー（Ｈを追いかける）。
…
どうしたまた面接落ちたんか？
！…（止まる）
頑張れウマヅラ！
…（去る）

（間）

Ｈ　Ａ　Ｈ　Ａ　Ｈ　Ａ　Ｈ　Ａ

（ピアノが一音ずつ聞こえてくる。）

（A、ピアノのリズムに合わせてケンケンパ的に跳ねながら進む。）

A　メリー…
　　メリー…
　　メリー…
　　メリー…
　　陽気に。陽気に。陽気に行こう。
　　生きてるだけでお祭りだから。
　　陽気に。陽気に。陽気に行こう。
　　未来はいいことしか起きないから。
　　そうだよね！
　　（突然B登場。輪に加わる。）
B　王子さまだよ！
A　ここは交差点。右を選ぶか、左を選ぶか。
B　王子さまだよ！
A　私が選ぶのは、絶対ぶつからないルール！
B　いっしょに回ろう！
A　陽気に回ろう！
A・B　ラーンダランダ、ランダバウト！
　　このは！
　　（A・Bの声と同時にC輪に加わる。）
A　スイッチ入った妹何考えてるかよくわからんくても

　　テンション上がればテンション揃えて
　　メリーメリーと仲良い姉妹！
A・B・C　たいが！
　　（A・B・Cの声と同時にH輪に加わる。）
A　引きこもりは社会の害だなんていうかもだけど
　　私に害がなければ別にいいじゃない傷つけるよりはさ！
A・B・C・H　お母さん！
　　（4人の声と同時にD輪に加わる。）
A　昔はママって呼んでてなんとなく気恥ずかしくなってお母さんって呼ぶようになっていつの間にかそう変えたのがまた恥ずかしくなって呼べなくなって！
A・B・C・D・H　お父さん！
　　（5人の声と同時にE輪に加わる。）
A　友達には母親っていうけど友達がお母さんって言ってるのを聞くだけでああああってなって父親はもうなんかそれ以上でもう呼ぶとかわけわかんなくって！
A・B・C・D・E・H　恋人！
　　（6人の声と同時に恋人風の人（F）が輪に加わる。）
A　もう思春期とか反抗期とかな年でもないのにあたし成長とかしないのかなってあああってなって！
A・B・C・D・E・F・H　上司！
　　（7人の声と同時に上司風の人（I）が輪に加わる。）
A　もうコピーするたびに枚数を記録しろとかそんなんカウンターとかフツーにあるでしょそれでいいじゃんとか思うのはもう社会不適合者なのかなとか！

A・B・C・D・E・F・H・I　誰かさん！

A　いくらでも恋なんかできるしいくらでも笑えるし、いくらでもどこまでもいけるしいくらでもどこまでも飛べる！

A・B・C・D・E・F・H・I　誰かさん！

A　どこまでも回っていくよ。ぶつからずに回っていくよ。

B・C・D・E・F・H・I　メリー！！

A　私はみんな家族だと思う。地球の上で生きているんだ。辛いこともあるだろし、争うときもあるだろし、それでも私たちは、家族だよ！

B・C・D・E・F・H・I　メリー！！

A　私たちは、家族です！いつでも回っています！

B・C・D・E・F・H・I　ラーンダランダ、ランダバウト！

A　ルールを守ればぶつからない！最適車間距離！

B・C・D・E・F・H・I　ラーンダランダ、ランダバウト！

A　気をつけて、いるんだよねみんな。だから、ぶつからない。

B・C・D・E・F・H・I　ラーンダランダ、ランダバウト！

A　みんな、今日も、平和です！陽気で平和な一日です！信号もなく一時停止もない。そして、それでもぶつからない。ラーンダランダ、ランダバウト！だから、私は平和です！

全員

A

F

（間）

…なんだそれ。

（A・F以外、「カッチ、カッチ」とウインカーを出して左折、退場。）

S.4

F　やあ、おりかちゃん。
A　…おはようございます。
F　今日は仕事は？
A　フレックスです。
F　そう。
A　お兄さんこそ、仕事は？
F　今日は遅番。
A　そう。
F　…仕事、大変なの？
A　…そうでもないです。
F　ふーん…
A　…なんすか？
F　おりかちゃん。
A　…
F　いいかい、僕は、宇宙人なんだ。

（間）

A　…はい。
F　おいおいそこはなんかもうちょっとリアクションー。
A　…はい。
F　僕は宇宙から来て、調査をしている。
A　…
F　人間の距離感ってやつを。

A　なんすかそれ。
F　人はどの位置にいると反応するのか。
A　…
F　（ゆっくりとAに近づいていく）…
A　…
F　人間というのは、緊張する。自分の領域に侵入されると。
A　…
F　精神的にも、肉体的にも。
A　…

（F、Aのすぐ近くまで寄る。）

A　…（Fの顔を睨んでいるように見える）
F　でも、侵入されても、生きていける。
A　…
F　ね。
A　…
F　そこが、興味深いところだよね。
A　…
F　ね。
A　じゃあ聞きますけど、お姉ちゃんが出てってもお兄さんがウチにいるのはその調査のせいですか。
F　そ。よくわかったね。
A　…
F　そもそも、ハルカと、一緒になったのも、その調査の一環。

A　…さーて。
F　何？
A　出かけまーす。
F　おりかちゃん。
A　あたしも実験中なんですよ。
F　ほう、何の？
A　宇宙人の調査を撹乱する。
F　…へえ。
A　（Fの目の前へ）緊張しませんよ。
F　…
A　…何か、あったからって、それをトラウマにしなきゃならないなんて、ルールないんだよ。

（A退場。）

F　…

（間）

（F、大きく手を広げると、そこは星空になる。）

（I、人形を持って立つ。人形はI生き写しのよう。Iの背景に影が現れる。）

影　（ささやくように）キレイだね。

F　星を眺めるのが好きだった。
影　（ささやくように）…オリオン！
F　遠くから、この星を眺めたい。そうすれば、人と人との距離感なんて、なんてことない。
影　（ささやくように）ねえ、なんの星が好きなの？
F　少しくらいもやっとしても、むかっとしても、いらっとしても、じわっとしても、なんてことない。
影　（ささやくように）ねえ、何がほしいの？
F　遠くからこの星を眺めれば、なんでこんなに距離感を考えなきゃ呼吸ができないのか、よくわからない。
影　（ささやくように）ねえ、よくわからないよ。
F　よくわからなくても生きていけることが、不満、なのかな。
影　（ささやくように）ねえ。

（影、まるで人形が喋っているかのように語り始める。）

影　ねえ！
F　自由、とは。
影　厄介者を掴まされたなーって思ってない？
F　思ってない！思ってないことはない！思ったって思ってないことにする！
影　なんで自分はこんなにつらいんだろーって思ってない？
F　思ってない！みんなそれぞれあるから！みんなそれぞれあるから思ってないって思い込む！

影　思ってない？

F　思ってないけど思ってないことはなくてやっぱり思ってる。

影　思ってない？

F　思ってないけど思ってないって思い込んでるだけだって。

影　思ってない？

F　思ってるけど思った途端に自分がクソにしか思えず。

影　思ってない？

F　思ってないことにして自分をクソじゃないと思いこんでる。

F・影　何を思っても自由なのに。何を思っても自由なのに。

F　何かを思うと思った自分がクソだとレッテルはられてる。

F・影　だから思わないことにしよう。何も思わないようにしよう。

F　何も思わなければ、理由なんて、ないんだから。

…それが、自由。

（A登場。）

A　なんでそんな自由かなー。

F　…（Aを指差す）

A　…？

F　ぶつかってみたら、いいさ。

A　…え？

F　…（Aを不吉な笑みで見つめながらゆっくりと回り始める）

（A、Fから逃げるように回り始める。I・影も回り始める。やがてダッシュになりI・影は「カッチ、カッチ」とウインカーを出して左折、退場。）

（F、Aに追いつきそうになる瞬間に照明変化。A・Fストップ。）

A　ぶつからない。だってここは…

F　見に行こうよ。僕らの交差点を。

E声　なにバタバタ騒いでんだぁ！

（F退場。）

S・5

（E、ちゃぶ台を持って登場。）

（A・C、幼少期の様子。）

A　ごっこ！

C　ごっこ！

E　もうすこし静かにー。

A　ねえねえ、結婚ごっこしよう。

C　結婚ごっこ？

A　おとうさんとおとうさんが結婚してこうごにゃごにゃってくちゃくちゃって…

E　あーあーあー何を言ってるんだこら！

A　このはが、おむこさんで、おりかは、おくさん。お父さんがお父さん。

A・C　娘さんと結婚が決まったけど、ガンコオヤジを前にしどろもどろなおむこさんを優しく見つめるお母さんの姿に惚れ直すお父さんについフラっときちゃう年増好きのおよめさんの劇的な展開ごっこー！

E　おいおい、全然わかんないぞ。

C　おとうさん！娘さんを！

A　どん！ウチの娘をナンだと思ってるんだ！

E　…どんって言った。

C　いまどんって言ったよね。

A・C　ひそひそ…

E　うるさーい！どんって言っちゃダメか！？いまお前らだってひそひそって言ったろひそひそって！

A　ねえ、ひそひそ話のひそひそってなんだろうね？

C　えっ、なんだろうね？

A　ひそひそ。

C　ひそひそ。

A　ひそ…

C　ひ…そ…

A・C　ゲシュタルトー！

E　おいおいなんなんだゲシュタルトって。

A　ゲシュタルトー。

C　ゲシュタルトー。

A・C　ゲスっゲスっゲスゲシュタルトー。

D　まあまあお父さんはいおやつですよー。焼きたてのチョコレートゲシュタルトですよ。

A・C　わーいタルトタルト！

A　ぱくぱく。

C　ぱくぱく。

A　ぱくぱく。

C　ぱくぱく。

A　ぱく。

C　ぱく。

A　ぱく。

C　ぱく。

A　ぱく。

C　ぱく。
A　ぱく。
C　ぱく。
A・C　ゲスっゲスっゲスゲシュタルトー。
E　おいおい、なんか楽しそうだなー。
A　ぱくぱく。
C　ぱくぱく。
E　ぱくぱくぱくぱく。
A　ぱく。
C　ぱく。
A・C・E　ぱくぱく。
A　ぱく。
C　ぱく。
A・C・E　ぱくぱく。
A・C・E　ゲスっゲスっゲスゲシュタルトー。

（玩具の兵隊のようなサーカス団のような色彩の一団が次々と入ってくる。）

サーカス１　チョコタルト？
サーカス２　チーズタルト？
全員　ゲスっゲスっゲスゲシュタルトー！
サーカス３　リンゴタルト？
サーカス４　チェリータルト？
全員　ゲスっゲスっゲスゲシュタルトー！

（一団が掛け声を繰り返しながらEを中心として円を描いて練り歩く。）

（A・C、タルトの妖精となりEの前へ。）

A　タルトタルト。
C　タルトタルト。
A　やあやあタルトの妖精さん。
E　だいじろうさんこんにちタルト。
C　今日も楽しくゲシュってますタルト？
A　おうおうやっタルトよ！はっ！

（サーカス団のような一団、退場。）

E　だいじろうさん、どうしタルト？
C　いかんいかん、ついノリノリになってしまった。
E　ノリノリなんでダメタルト？
A　厳格な父親を演じているのに。
A・C　誰も思ってないタルト。
E　えー！？
A　タルタル（笑う）。
C　タルタル（笑う）。
E　マジかよー父親の尊厳がー。
A　まあまあ落ち込まないタルトよ。

C　落ち込むと糖分足りないタルトよ。
A・C　そんなときははいタルト！
E　ぱくぱく。
A・C　はいタルト１００グラム３７１キロカロリー。
E　聞いておくれよタルトの妖精。
C　仕方ない聞くタルトよ。
E　うちには娘が３人いるんタルトよ。
A　ハルカ、おりか、このはの３人タルトね。
E　ハルカが、みんなとなじまないタルトよー。
C　おやおや、それは何タルト？
E　何タルトかー…
A　困っタルトねー。
E　ほら、家族はさ！やっぱり、仲良くないとー。
A・C　そんなの幻想タルト。
E　えー！？
A　まあまあ、そんなときは神頼みタルト。
C　人間は神頼み得意タルト。
E　おいおい、なんかディスられてんな。
A　まあまあ、ぼくらも応援するタルト。
C　あまーいタルトで神様にお願いするタルト。
E　そうかあ？なんか他人事だなー。
A　そんなことないタル、タルト・タタン！（ステップを踏む）
C　応援するタル、タルト・タタン！（ステップを真似する。）
E　おっ。（ステップを真似する。）
A　タルト・タタン！

C　タルト・タタン！
A・C・E　タタン！タタン！タルト・タタン！
A・C　タタンといったれだいじろうー！！
E　よーし！どーか神様仏様ご先祖様ー！！

（不思議な音。神様登場。）

神様　呼んだかー？
E　ええっ！？…
神様　呼んだか？
E　え？…あなたは、神様ですか？
神様　とんでもないあたしゃ神様じゃ。
E　マジか。
神様　神様になんか用か？
E　えーっと…
神様　ここのかとーか…
E　…えー。
神様　とんでもないあたしゃ神様じゃ。

（不思議な音。仏様登場。）

仏様　呼んだかえ？
E　ええっ！？
仏様　呼んだかえ？
E　えー、あなたは…

仏様　仏様じゃ。
E　えっ仏様？

（不思議な音。ご先祖様登場。）

ご先祖様　呼んだかのー？
E　ええっ！？
ご先祖様　呼んだかのご先祖様じゃ！
E　ご先祖様！？
神様　おいおい何しに来られたんじゃ仏様にご先祖様。
ご先祖様　何をいうかまず最も身近なのがご先祖様じゃ。
仏様　仏の御心こそが救いじゃて。

（神様・仏様・ご先祖様の言い争い。A・Cは「タルト・タタン」で大賑わい。）

E　えーっ…

（Eと対称の位置にF登場。Fが「パン！」と手を叩くと、A・C・神様・仏様・ご先祖様退場。）

S.
6

E　お父さん。
F　ん？…ああ…

（E・F対称の位置に座る。E運転席、F助手席の様子。）

E　大丈夫ですか？運転代わりますよ？
F　あ、いや、神様仏様ご先祖様がね。
E　え？
F　タルト・タタンって。
E　カンベンしてくださいよ。どこかで甘いの食べます？
F　いや…
E　で、ハルカがどこにいるか、ってことですか。
F　…
E　それなんですけど、お父さん。
F　ん？
E　聞いていいですか？
F　ああ。
E　ハルカがね、結婚して間もないころ言ってたんですよ。
F　…
E　こどもってのはね、親の呪いがかけられているんだって。
F　…
E　だから、わたしだけ、特別な呪いがかかってるって。
F　…

E　そうなんですか？
F　…すまん。
E　いや、別にいいんですけど。
F　…
E　お母さんの連れ子ってことですか。
F　まだ、おりかもこのはも生まれる前の話で、ふたりとも知らないはずなんだけどね。やっぱり、わかるもんかね、血は。
E　そうですね。血ですからね。
F　うん…
E　でもね、僕思ってたんですよ。一緒に住まわせてもらって。
F　…ん？
E　ぶっちゃけていいですか？
F　…もちろん。
E　お父さん、ハルカをいちばん愛してるって。
F　…そんなことないよ。
E　おりかちゃんもこのはちゃんも、まあ、年頃なんで複雑かもですけど、そういうの抜きにしても、きっとハルカにいちばん愛情があったんじゃないですか？
F　…そうでもないよ。
E　そして今も。
F　…
E　僕にはちょっと理解できないんです。
F　…
E　なぜ自分の子ではないハルカに、そこまで執着するのか。

E　…勝下くん。
F　…
E　…まあ、いいじゃないか。

（H登場。）

H　「まあ、いいじゃないか」？

（E・F退場。）

（H「パン！」と手を叩く。と同時にA・C登場。）

A・C　お腹いっぱい！
C　おりか食べすぎ。
A　いやいやいやこのはのほうがだわ。
D　デザートあるよー。（デザートを持ってくるポーズ）
A・C　マジかー。
D　タルト・タタン。（ステップを踏む）
A・C　タルト・タタン。（ステップを踏む）。え、何それ。

（A・C・D、笑う。）

A　よし、このは。
C　おりか。
A　女子の別腹なめんなよ。

C　おうおうなめんなよ。
A　第二形態！
C　第二の胃を覚醒させる！
A・C　第二の胃！発動！ゴゴゴゴゴゴゴ！（タルトを食べながらノリノリで対峙する）

（E通りかかる。）

E　なにやってんだ。

（間）

A・C　シャシャシャシャシャシャ…
E　おりか、このは。
A・C　！（勢いよくEの方を向く）
H　おりか、このは。
E・H　ハルカはどう思う？

（間）

（A・C、表情を曇らせて去る。）

H　…
E　どうした？たいが。
H　…（去るように回り出す）

（E退場。後にH運転ポーズになり、対象の位置に会員たちが運転ポーズで登場。後に回転止まる。）

（H、「生と死を考える集会」の会場にいる様子。会の様子を眺めている。）

会員１　私はあえて問いたい！「To be or Not to be」！

会員２３４　To be or Not to be･･･

会員１　その答えは、常にひとつしかない。生きるべきでない者が死に、死ぬべきでない者が生きるのだ！

会員２３４　おおーっ！！

会員２　私たちはなぜ「生かされている」のか！？

会員１３４　生かされているのか！？

会員２　その答えは、常に目の前にある。生きるために、希望を持ち、生かされるために、希望を失うのだ！

会員１３４　おおーっ！！

会員３　生と死の境界線とはどこか？

会員１２４　境界線とはどこか？

会員３　生は進むこと。死は留まることだ！

会員１２４　おおーっ！！

会員４　それではみなさん、今日も希望を胸に、そして我らの生と死の神に唱えましょう。

会員１２３　ウイムッシュー！！

会員３　キミ。キミも加わりなよ。

H　えっ？

会員１　大丈夫。救われるさ。

会員４　では参ろう！…ウィッシュ！ウィッシュ！ウィッシュ！

会員１２３　ウィッシュ！ウィッシュ！ウィッシュ！

会員４　ホープ！ホープ！ホープ！

H・会員１２３　ホープ！ホープ！ホープ！

会員４　ジョイナス！ジョイナス！ジョイナス！

H・会員１２３　ジョイナス！ジョイナス！ジョイナス！

会員４　ウィッシュホープジョイナス！

H・会員１２３　ウィッシュホープジョイナス！

会員４　ウィッシュホープジョイナス！

H・会員１２３　ウィッシュホープジョイナス！

（A、途中からHたちの様子をPCモニター越しに眺めている。）

A　…何やってんの…

（A、PCをパタンと閉じる。H・会員たち退場。）

A　ねえおばあちゃん！

（G登場。）

G　なんだいおりか。

A　ハルカが生まれた時さ、初孫だったわけじゃん。
G　…そうねえ。
A　どんな感じだった？
G　…うーん…
A　やっぱり、生とか死って、意識する？
G　…あたしゃもう死んだ方がいいの。
A　…また出た。

（看護師風の者たちが、Gの周りを回り始める。）

看護師１　木馬さーん。
看護師２　木馬さくさーん。
看護師１　木馬さーん。
看護師２　木馬さくさーん。
看護師１　木馬さーん。
看護師２　木馬さくさーん。
看護師１２３　木馬さーん。木馬さくさーん。

（看護師３、小さく「木馬さーん。木馬さくさーん。」と繰り返す。）

G　あたしゃもう死んだ方がいいの。
看護師１　はいはい木馬さん診察室へどうぞー。
看護師２　はいはい木馬さん聞こえてますかー。
G　あたしゃもう死んだ方がいいの。
看護師１２　はいはい木馬さんわかったよー元気ですねー。
G　そう。でもそんなことひとっつも思ってない。

A　ただ、どうやって幕を下ろすかはいつも考えてる。
G　なに言ってんのばあちゃん。
A　あたしが死んでも、いつまでもそこに残るには、どうしたいいのかなって。
看護師１２３　はいはい木馬さんわかったよー。
A　はいはいばあちゃんわかったよー。

（看護師３、小さく「はいはい木馬さんわかったよー。」と繰り返す。）

G　でもね、みんなは絶対もう早く死んだほうがいいと思ってる。
看護師１２３　はいはい木馬さんわかったよー。
A　はいはいばあちゃんわかったよー。
G　だってこの前なんか、あたしがちょっと出かけてたら、カギ締めちゃうんだから
A・看護師１２３　カギ持ってってるでしょ、ばあちゃん。

（F、高い位置から舞台全体を眺めている。）

F　いいかい、僕たちは、同じ星の下に生まれてきたから、家族なんだ。すごい偶然で、すごい運命なんだよ。
A　…
G　…へえ。

（A・看護師たち退場。入れ替わりでD・E登場。）

S．7

（DとEが向き合う。Gがそれを外から眺める。）

D　子供ができたの。
E　子供ができたの。
D　…えっ？
E　…えっ？
D　お母さん、どういうことですか？
E　冬子さん、ごめんなさいね。
G　…できたのか？
D　できたけど、え？
E　嬉しいことじゃない。とても嬉しいことじゃない！
D　そうだよ、一気にふたりも子供ができて！
G　どういうことですか？
D　この人は、再婚、って。
E　ええ、聞いてます。
G　元の奥さんがね、親権を放棄したの。
D　えっ…
E　申し訳ない。
D　いやいや、えっ、それは。
G　でも嬉しいことじゃない。
E　いやいや、母さん。
D　いやいや、でもそれは。
E　確かにそう。
D　親権はないからって。だから結婚したのに。
E　だから？
D　いや、だからじゃないけど。
G　ごめんなさいね。
D　いやいや、でもそれは。
E　喜ぼう！ねえ、母さん！
D　そうよ！ね！
G　……ええ、そうですね。

（E・G退場。）

D　私は、母になりました。

（I、人形を手にDの前に。）

D　…

（I、人形をDに差し出す。D、人形を受け取り抱きしめる。）

D　…不思議とわだかまりは感じませんでした。素直とは程遠い子でしたがむしろ手はかからず気は楽でした。しかし。
G　頑張れ、お母さん！

（Eは居間で新聞を読みながらビールを飲んでいる風。
Gはせんべいを食べながらテレビを見ている風。）

（A・C幼少期風で登場。）

A・C　ハルカ！
D　…えっ？
A・C　おねえちゃん。
D　…（人形を改めて見直し、A・Cの方に向ける。）
C　おねえちゃんおねえちゃんおねえちゃん。
A　このはこのはこのは呼んだ？
C　おかあさんごっこしよう！
D　えっ何それ？
A　何それ楽しいの？
C　このはお母さんになりたい！
D　やめときなって、大人は大変だぞ。
A　えーそうなの？
D　じゃあお姉ちゃんがおかあさんの厳しさを教えてあげる。
C　うん！
A・C・D　では、おかあさんごっこ、スタート！
D　赤ちゃんができました！
A・C　わーい今日からおかあさんだー！！
A　木馬さんまた残業？
D　すみません明日のプレゼンの準備が。
A　もう、お母さんなんだから、ほどほどでいいんだぞ。
D　えっ、あ、はい。
C　どうした冬子ちゃん疲れてるー？
D　えっ大丈夫です。
C　まあまあ、お母さんなんだから仕方ないかー。
D　えっ、すみません。
G　何やってんのこーら。
E　おい、これで動画でも見てろ（ダブレットを差し出す）。
C　（タブレットを受け取り）えーごっこはー？
D　よし、お母さん動画見て確認します！
A　おかあさん動画？
A・C・D　お母さん動画！
隣人1　あら木馬さん！
D　あっ、こんにちは！
隣人1　どちらにお出かけ？
D　いや、ちょっと買い物に。
隣人1　買い物にしてはばっちりお化粧だねえ。
D　いえ、そんなわけじゃ。
隣人1　お母さんなんだからもっと落ち着いてさっぱりしたら？ね？
D　えっ、はい。
A・C　契約更新！
隣人2　木馬さん、はいこれ。
D　えっ、なんですか？
隣人2　まあまあお母さんなんだし、そんなに根詰めなくてもさ。
D　私、大丈夫です。

隣人２　部長とかも心配してるからさ、まあ時間も短くなるし、気ぃ遣いながら育休とかより全然気楽でしょう？

Ｄ　はあ…

隣人１２　元気な女の子ですよー！！

Ｅ・Ｇ　おめでとーう！！（拍手）

Ｄ　ありがとう！

Ａ・Ｃ・Ｅ　ママ！

隣人１　はいお母さん大変ですからしょうがないですよね大目に見ましょうねー。

Ａ・Ｃ・Ｅ　ママ！

隣人２　まあまあそんなに頑張らなくていいから頑張ると迷惑だから。

Ａ・Ｃ・Ｅ　ママ！

Ｇ　ほらどこか出かけるわけでもないのにお化粧なんていらないでしょお母さん。

Ａ・Ｃ・Ｅ　ママ！

Ｅ　…あれ、お風呂は？

Ａ・Ｃ・Ｅ　ママ！

Ｄ　うるせーっ！！！

（隣人１２退場。）

（間）

Ｄ　妊娠したら、もう女じゃありませんか。

Ａ・Ｃ・Ｅ　仕事は頑張らなくていいんですか。

Ｄ　子供産んだら、もう人じゃありませんか。

ママは馬鹿ですか仕事できませんか化粧しちゃダメですか頑張ると迷惑ですか。

Ａ・Ｃ・Ｅ　ママ！

Ｄ　私の気持ちを慮れっていうんだよ。慮れとか使えるんだぞバカじゃねんだぞアルパカじゃねえぞ的な！

Ａ・Ｃ・Ｅ　ママ！

Ｄ　私の人格返せとかもっともらしいこと言わないからせめて人として生きていいですか的な。

Ｅ　ママ！

Ｄ　いや旦那なんか何にもやんないんだよできないしそんなことはわかってるんだけどでもさ期待してるわけじゃないけどこうさ、思うじゃんかさ、

Ｇ　だからね…あたしゃもう死んだ方がいいの。

Ｄ　だから、ダメだった。

Ｇ　みんなは絶対もう早く死んだほうがいいと思ってる。

Ｄ　ダメだったから、やめてやった。

Ｇ　私はもう、ここにいるのもわかってもらえない。

Ｄ　わからないんだなって。

Ｅ　わからない。

Ｄ・Ｇ　わからないんだなって。

Ｅ　何考えてんだか。

Ｄ　向こうもわかんないし、こっちもわかんないし、そういう前提にしたの。

そういうことにしたの。

（C・E退場。）

A　…（Dの放った人形を拾う）

（間）

D　…（退場）

G　…おりか。

A　…

G　あんたもね、もうちょっと素直だったらいいのにねえ。

A　……なんだそれ。

（A退場。）

G　…

（F、高い位置から舞台全体を眺めている。）

F　いいかい、僕たちは、同じ星の下に生まれてきたから、家族なんだ。すごい偶然で、すごい運命なんだよ。

S・8

（Gと入れ替わるようにC登場。）

C　おばあちゃんは何であんなに偏屈なのだろう。これだから年寄りは。

（C回り始める。）

（H運転ポーズで入ってくる。）

C　あれ！たいが！

H　このはー。

C　免許取れたんだー。

H　当然。

C　じゃあ就職もいけんのか？

H　…当然。

C　おろ、えらくポジティブじゃんか。

H　生まれ変わったからね。

C　えー？

（A突然運転ポーズで入ってくる。）

A　たいが！

H　…

A　なんなのさ、あの、「生と死を考える集会」って。

H　…何でもないよ。

A　変な宗教とかじゃないよね。

H　大丈夫だよ。

（D・E突然運転ポーズで入ってくる。）

D　ちょっとあんたたち！

A・C・H　？（止まる）

D　おばあちゃん知らない？

A・C・H　…さあ。

（A・C・D・E・Hストップ。）

（Gとぼとぼと歩いている。）

（G、扉を開けようとドアノブに手をかける風。開かない。）

G　…

（Gまたとぼとぼと歩きだす。ゆっくり退場。）

A　（Aのみ動き出す）おばあちゃんがいないの！

C　とりあえず警察じゃね？

E　デイサービスに連絡とか。
H　どうせ早くなんて歩けないんだから。そのへんにいるよ。
D　徘徊も困ったもんだねほんと。

（間）

A　…（ケイタイを取り出す）…「徘徊」。目的もなくうろうろと歩き回ること。

（A・C・D・E・H回り始める。）

A・C・D・E・H　うろうろ。
D　徘徊でしょ？
A　今は徘徊って言葉は使わないんだって。
C　え、それ何？
A　逆に迷ってるだけなんだって。
D　いや、理由つけたって徘徊は徘徊でしょ？
A　出かけたんだから目的はあったんだって。
E　参ったなあカギ持ってるのに。
A　心配じゃない？
C・D・E・H　そーだねー。

（C・D・E・Hストップ。）

（間）

A　…あたしだ。

（C・D・E・H退場。）

A　…あたしは、徘徊者だ。

（G歩いている。）

A　おばあちゃん。
G　…
A　おばあちゃん！
G　おや？
A　おばあちゃん？
G　何なの、大きい声出して。
A　…
G　うろうろしてると、ご近所様に迷惑よ。
A　…うろうろ。
G　そう。うろうろ。
A　うろうろ。

（一群、舞台を回り始める。）

一群　うろうろ。
A　うろうろ。

一群　うろうろ。
A　うろうろ。
一群　うろうろ。
A　あたしはただ、目的もなく、ただうろうろと彷徨う徘徊者。
一群　いいえ！あなたは目的がありうろうろと路頭に迷う旅人だ！
A　わかんねえよ。
D　向こうもわかんないし。
E　こっちもわかんないし。
D　そういう前提にしたの。
E　そういうことにしたの。
D・E・G　そういう私の気持ちを慮れっていうんだよ。

（一群ストップ。）

（間）

A　…知らねえよそんなの。

（A・一群退場。C登場。）

（F、高い位置から舞台全体を眺めている。）

F　いいかい、僕たちは、同じ星の下に生まれてきたから、家族なんだ。すごい偶然で、すごい…

C　教えてよ。
F　…ん？
C　教えてよ神様仏様ご先祖様王子さま！！

（B、Fと対称の高い位置に登場。）

B・F　いいかい、僕たちは、同じ星の下に生まれてきたから、家族なんだ。すごい偶然で、すごい…
C　！（「パン！」と手を叩く。同時にH登場）
C・H　宇宙！！

（赤い星空に変わる。）

H　お兄さん！
C　王子さま！
F　たいがくん、どうした？
B　このは姫、どうした？
H　お兄さんは宇宙人なんでしょう？
C　あなたは星の王子さまなんでしょう？
F　おお、そうだよ。よく知ってるね。
B　おお、そうだよ。よく知ってるね。
H　じゃあ教えてください。
C　じゃあ教えてください。
F　なんだい？
B　なんだい？

C・H　この星は家族なのか？
B・F　…いいよ！

（BとC、FがHと対称に立ち、一群がゆっくりと回り始める。）

B　見上げれば、満天の星々。
F　見下ろせば、満天の星々。
B　星の王子さまは語る。
F　キミが笑えば、僕も笑う。キミが泣けば、僕も泣く。
B・F　だって家族だから。

（B・F、回転する一群を順に指差していく。）

B・F　ロワ！　／一群　（ささやくように）王様。
H　セミナーの発表者誰かさん。
B・F　Honneur！　／一群　（ささやくように）自惚れ屋。
H　オフ会で隣になった誰かさん。
B・F　buveur！　／一群　（ささやくように）呑み助。
H　電車で足を踏まれたのに知らん振りした誰かさん。
B・F　home daffaires！　／一群（ささやくように）実業家。
H　ただの思想に噛み付くＳＮＳ奴隷の誰かさん。
B・F　allumeur！　／一群　（ささやくように）点燈夫。
H　リアルとネットに同居する聞こえてこないのに聞こえる中傷を流す誰とか。

B・F　geographe！　／一群　（ささやくように）地理学者。
H　僕を後ろからマジ蹴りしたクラスメイトの誰とか。
B・F　そして！…La terre（ラ・テール）。
H　僕？
B・F　僕という、地球。
H　僕から見えるこの星は、全部、家族？
B・F　そう。
H　なら…なら、みんな、家族なのに、何で…
C　…何で。

（B・H・一群退場。A、纏を脱ぎ一群からAに。）

（F、高い位置で人形を掲げる。）

A　あの、夜に、見上げた、星空は、
確かにキレイで、よく覚えてる。
でもその見上げた星空は、
もう赤くしか見えない。
終焉は、赤い輝き。
この星は、もう終わるのかな。

（A・F退場。ゆっくりとB登場。）

C　ねえ、王子さま。
B　何だい？

C　どうして、私たちは、わかりあえないのですか？
B　…それはね…
C　それは？
B　まあ、いいじゃないか。

（B・Cを遮るようにA・F登場し向かい合う。B・Cはストップ。遠巻きにD・Eの姿が見える。）

A　…（人形を掲げる）
F　…
A　（ささやく）…私ね、知ってる。
F　…
A　（ささやく）…何が言いたいか。
F　…
A・F　まあ、いいじゃないか。
F　…

（A・B・D・E退場。）

C　お兄さん。
F　どうした、このはちゃん？
C　ホントなんですか？
F　…そうみたいだね。
C　…
F　何か？

C　思い当たるといえば当たるし。
F　…まあねえ。
C　でも、ハルカが、姉でも、そうでなくても。
F　ま、どっちでもね。
C　…どっちでも。
F　このはちゃん。
C　ん？
F　じゃあもうひとつ教えてあげるよ。
C　家族なら？
F　…そう、家族なら。
C　…
F　おりかちゃん。
C　…
F　…
C　…お兄さん。
F　…何だい、このはちゃん。
C　…私、あんまり聞きたくないです。
F　じゃあ言わないから、当ててごらん？
C　…
F　…
C　おりかと…？
F　…
C　…いちどだけ…
F　…
C　……あやまちを…？

F　…あやまち、とは、思ってないけどね。
C　…あのね、よく、わかんない。
F　言おうか？
C　いい。
F　じゃあ、おりかの言葉は教えてあげる。
C　…
F　「何か、あったからって、それをトラウマにしなきゃならないなんて、ルールないんだよ。」
C　…
F　ここからは僕の言葉。
C　…
F　それとね、乗り越えなきゃならないなんてルールもないんだよ。
C　…
F　ただ、見上げてるだけじゃなく。もっと見たい。どこまで広がるのか。どこで終わるのか。この星のクソを、もっとね。

（F、Cに近づいてくる。）

（C、「パン！」と手を叩く。F退場。）

（間）

C　…（明らかに動揺しているが、大きく深呼吸して落ち着こうとする）…
いくら、この星が瞬いたって…
関係ないだろ？
関係ないだろ？
…関係なくないよ！
関係しかないよ！
何だよ関係って！
何だよ…

（間）

（A登場。）

A・C　私は、…いつまでも変わらないのか。このままなのか。
A　おりかっ！！！！
C　！

（間）

A　…
C　…何、このは。
A　…
C　…
A　…おりか！
C

A　このは！

C　…

A　…

A・C　何を言ったら、ぶつかれるのかな。

（A・Cゆっくり回り始める。）

S・9

（A・Cの回転にぶつからぬよう次々と一群が車の運転ポーズで入ってきては出ていく。）

A・C　（囁くように）どこまでも、回っていくよ。ぶつからずに、回っていくよ。

一群　（囁くように）ラーンダランダ、ランダバウト。

A・C　私はみんな…地球の上で…
辛いこともあるだろし、争うときもあるだろし、
それでも私たちは…

一群　ラーンダランダ、ランダバウト。

A・C　私たちは！…
いつでも回って！…

一群　ラーンダランダ、ランダバウト！

A　ルールを守ればぶつからない！
最適車間距離！

一群　ラーンダランダ、ランダバウト！

A　気をつけて、いるんだよねみんな。
だから、ぶつからない。

一群　ラーンダランダ、ランダバウト！

A　みんな、今日も、平和です。
陽気で平和な1日です。
信号もなく一時停止もない。

そして、それでもぶつからない。
だから、私は平和です！
白馬の王子様だって、大嫌いな妹だって。
生と死を考える集会でも、姉じゃないかもしれない姉も。
無害に生きようとする父さえ、有害なばあちゃんでさえ。
女の尊厳振りかざす母も、あの夜の宇宙人の顔も。
会社の上司もタルト・タタンもじいちゃんの死もあの夜も。
掃いて捨てるような恋もいちいちうざいエゴサもあの夜も。
どんなに徘徊しても私に止まれなんて言ってくれない。
まわってまわってまわってまわってぐるぐるでぐるぐるで。
どんなに私はぐるぐるしても
事故なんてない。事故なんてない。
トラウマにしなきゃならないなんてそんなルールないし
乗り越えなきゃならないなんてルールもない。
なのに私はぶつからない！
絶対絶対ぶつからない！

（轟音とともに色とりどりの回転木馬がAの周りを回る。回転していたAがその場に倒れ込む。）

（間）

A　…

（Aゆっくりと起き上がる。周りには動かない回転木馬のようなもの。A、周りをうかがい、回転木馬のようなものをを眺めるように、彷徨うように回り始める。）

A　あたしは、ずっと、ずーっと、
こんなにたくさんの、イロを、しまいこんで、
生きていくのかな。
そのまま死んじゃうのかな。
病院だか施設だかのベッドの上で、
泡のように心残りばかりがほわほわと浮かんでは
それも誰にも伝えられないのかな。
みんなそうやって死んでいくのかな。

そんな思いも、
感謝も、
何も言えずに、突然死んじゃった人もいる。
たくさんたくさん
言いたかったことも言えずに死んじゃった人もいる。

私は、どうするのかな。

A　事故なんて、ないほうがいい。
こうやって、心の奥の奥にしまいこんでおけば
ぶつからない。
事故なんて、ない方がいい。
いいに決まっている。
けれど…

（Cゆっくりと登場。）

C　…あたし？
A　…私。
C　…好きだった？
A　…キライだった？
C　幼いころ、メリーゴーランドが好きだった。
A　キライだった。
C　メリーゴーランドのイロが好きだった。
A・C　キライだった。
C　どこまでも染み込むような原色。
A　このイロが、いつか色あせてしまうんだろうって
C　そう思うとたまらなかった。
A　このイロが、いつか色あせていくんだろうって
C　そう思うとたまらなかった。
A　そのころあたしはおとなになって
C　何をしているのかな。
A　そう思うとたまらなかった。

C　そう思うとたまらなかった。
A　（A・C一瞬止まる。）
C　あたしは変わらなかった。
A　私は変わった。
C　メリーゴーランドは、置き去りにされて
A　私の中で色あせていた。
C　王子さまを運んでくることはなく
A　ずっと、ずっと、回っている。
C　小さく軋みながら。
A　小さく軋みながら。
C　この世界の片隅にある誰も目を向けてくれないあたしという遊園地。
A　たくさんの遊具がそこで眠っている私という遊園地。
C　子どもたちの歓声。
A　子どもたちの歓声。
C　子どもたちの夢や思い出が生まれては染みついていく場所。
A　子どもたちの夢や思い出が生まれては染みついていく場所。
C　そこであたしは、誰にも気づかれずにぐるぐると回っている。
A　ぐるぐると回っている。
C　そんなことを
A　そんなことを
C　こう…思った。
A　こう…思った。

A　このイロ…
C　あたしは、待っているのかな！
A　ここでずっと待っているのかな！
C　ぐるぐると回って待っているのかな！
A　ここはメリーゴー、ラウンド。
C　メリーゴー、ラウンダバウト。
A　環状交差点。
C　思いが、交差する場所。

（一群登場。）

A・C・一群　メリー…メリー…メリーゴーラウンダバウト！
陽気に！陽気に！お祭り騒ぎで僕らは出会う！
ぶつかることなく回ってる！
でもきっと、ぶつかるために回ってる！
きっとそうなる！
なるんじゃないかな！
なったらいいな！
だからできるだけ！陽気に！陽気に！
お祭りだから！
生きてるだけでお祭りだから！

F　さあこれで宇宙から来たこの星の調査もいよいよ大詰めです。イロのないこの星に、イロはあるのか。それでは参りましょう！メリー？

A・C　メリー！

F　メリー？

A・C　メリー！

全員　メリーゴー！ラウンダバウト！！

S・10

（音楽。全員ダッシュで回転する。笑顔。）

一群　このは！
C　ひたすらビビリでコミュ障で
そんな自分がちょっとキライで！
クラスメイトとバカやるときも、
いつも顔ばかり気にしてた！
顔！顔！顔顔顔！！
いい子でいるのもヤな子でいるのも自分次第だというのならば！
私の居場所を与えてくれたのは
おりか！

一群　（A呼応するようにCの対称に。）

C　そうだよおりかだよ！
私にとってただ一人の姉。
ハルカは姉だけど姉じゃない！
私の居場所を許してくれる
唯一無二の存在だよ！

A・C　タルト・タタン！！

A　って思えば楽しいそんな二人の時間だった！
あーそーだったんだねこのは！
すごく嬉しい心から！
でもねあたしはやっぱりあんたが

一群　大好きだけど大キライ。
自分の居場所を見つけるために、
パンッ！と自分を変えられる。
羨ましくて仕方がなくて
ほんとにキライでだからたいがは好きだった！
私と同じ！同じだって！でも…
カツオリ！！

（F呼応するようにAの対称に。）

A　そうだカツオリは、あたしにとって記憶の人。
たったいちどのあの夜だけは、生涯きっと忘れない。
好きとかキライとか、相性だとか
そんなんじゃないしむしろ言ったら
無理やりだとすら言えるかもだけど
人生このまま死んじゃうとして
誰かにお礼とお詫びを言うなら
絶対この人なんだろなって。
あなたにとっては爪痕でも
あたしにとっては目印かも。そんな…

A・F　宇宙の星々の中のあなた！

F　は確かに言いすぎかもしれない、
けど確かに記憶だとすればそれは
絶対に消えないものだ。
それほどのシンパシーを感じて
それがお互いわかってる。
でもおばあちゃんが忘れていくように

ハルカが薄めていくように
人は変わっていく
いや、ずれていくのだと言うべきか。
それがホントに怖かった。だから
一群　このは！
（C呼応するようにFの対称に。）
F　そう、変わっていくことずれていくことが
希望だってこのはは教えてくれた。
変わらぬものを欲しがっては
ぜんぶ指と指の間からこぼれていく僕に
リアルを感じさせてくれる。
だから伝えたおりかとの秘密を
それで変わるキミを見たくて。
一群　メリー！ゴー！ランダバウト！
このは！
C　それがイヤだった！
私もおりかと同じで何でこんなに気になるのかって！
そもそも何でハルカもいないのにウチにいるのかだって！
おりかとの裏に見えていなかった感じが
今やっとわかった私キライだ！
一群　おりか！
A　待って何でそれをこのはに伝えたの！？
あたしの大切な記憶はこのはにねじ曲げられてくの！？
一群　カツオリ！
F　記憶は変わっていく、ずれていく。

一群　だからもっと実感できる、
リアルな記憶が欲しかった！
C　このは！
ただのゲスヤローじゃねえか！
嫌悪感とか以前に頭がついていかないじゃんか！
一群　おりか！
A　ホントにこのははすごい。
それが言える。それを持ってる。
それがあったらあたしはもっとおとなになれる。
だから！言う！
一群　カツオリ！あたしの記憶は！
F　カツオリ！
理屈じゃねえんだよ！
無意識にぐるぐる回ってるウチラは理屈じゃねえんだよ！
それを理屈であてはめて、
これでいいんだと決めてるだけだろ。
そしたら自分生んだ両親は
神様だとでも言えんのか！
一群　おりか！
A　神様なんかじゃない！
一群　このは！
C　聖人君子じゃない！
一群　カツオリ！
F　むしろクソだって！
一群　おりか！

A　父はいつもハルカばかり見てた！
一群　このは！
C　母はハルカに呪われた！
一群　おりか！
A　ハルカはカツオリを奪った！
一群　このは！
C　ばあちゃんは奪われた！
一群　おりか！
A　じゃああたしは！？
一群　このは！
C　私は何なの！？
一群　おりか！
A　クソじゃんか！
一群　このは！
C　何なんだよこれ！
一群　おりか！　／　このは！
A　スキ！？キライ！？　／　C　キライ！？スキ！？
一群　このは！
C　もうぜんぶわからなかった！
一群　おりか！
A　だからあたしは決めたんだ！
一群　おりか！このは！
A・C　ぶつからないのがルールでしょ。
一群　カツオリ！
F　そうこの星のほとんどが、そんなルールで生きている。

一群　おりか！
A　イロのある自分を奥の奥へと閉じ込めて。
一群　このは！
C　そうしてイロのない世界へと、自分を溶け込ませ続ける。
一群　おりか！このは！カツオリ！
A・C・F　それが、家族です！
それが、平和です！
この星の、家族です！

（間）

A　…あなたは何がしたかったの？

（間）

F　……この星は、もう終わらせるべきだ。

（音楽。F、Cに襲いかかり舞台中央でねじ伏せる。
一群、口々に擬音語と「ゲシュタルト！」と叫びながら木馬らしきものたちとともに崩れるように舞台から去っていく。）

A　！（「パン！」と手を叩く。）

A

…

（C・Fゆっくりと退場。）

（A、ひとり佇む。）

EN.

（A、ゆっくりゆっくり、その場でぐるぐると回りはじめ、次第に小さく円を描き回り始める。）

A　私にとって、私が変わる記憶って、なんだろう？
毎年誕生日にプレゼントもらってクリスマスにプレゼントもらってそれはそのとき一番嬉しいけれど、私が変わったとは記憶していない。
結婚なのかな。出産なのかな。
でも、記憶しているのは、一緒に見た海の色とかそんな些細なものだったりして、ああ私はあのとき変わったんだって。
そうしたらそれは結婚よりも出産よりも大切なのかな。
それはそれでひどい人の気さえする。
けれど。

（A、指先で何かにちょんと触れる。ピアノの音とともに色がつく。）

A　私にとって、イロのあるひと。

（D、鮮やかな色を纏ったいでたちで登場。）

A　一緒に見た、海の色。海の人。

（E、鮮やかな色を纏ったいでたちで登場。）

A　一緒に過ごした、夜の色。夜の人。

（H、鮮やかな色を纏ったいでたちで登場。）

A　一緒に走った、熱の色。熱の人。

（I、鮮やかな色を纏ったいでたちで登場。）

A　一緒に泣いた、涙の色。涙の人。

（間）

（次々と鮮やかな色を纏った者たちが現れ、回り始める。）

A　…今日だって明日だって明後日だって限りなくて
どこまで行ったってなにも掴めなくて
届かないから躍起になって
切なくて
生きるために生き抜くためにあなたに出会って！
少し恋をして
少し恋をしたから

忘れられなくて
忘れられなくてもいいから
まあ、いいから
だからもう…
許してほしい。
A　！…
F　たとえ涙が。
C　たとえ涙が。
A　…（涙をこらえながら）たとえ涙が。
A・C・纏った者　止まらなくても！
止まらなくても！
止まらなくても！
止まらなくても！
クソったれでも、まあいいから！
行こう！

（C、纏いを脱ぐ。）

C　おりかっ！！
A　…このは。
C　行こう！
A　…（手をつなぐ）
A・C　お父さん！

（E、纏いを脱ぎ父の姿へ。）

A・C・E・纏った者　私たちは、家族です。
A・C　お母さん！

（D、纏いを脱ぎ母の姿へ。）

A・C・E・D・纏った者　いつも回っています。
A・C　おばあちゃん！

（G、纏いを脱ぎ祖母の姿へ。）

A・C・D・E・G・纏った者　気をつけて、いるんだと思う。
A・C　たいが！

（H、纏いを脱ぎ弟の姿へ。）

A・C・D・E・G・H・纏った者　だから、ぶつからない。
A・C　王子さま！

（B、纏いを脱ぎ王子さまの姿へ。）

A・B・C・D・E・G・H・纏った者
ぶつからないんじゃない。
僕らはいつも。
いつでも王子さまと

素敵な出会いがしたいって
ばかな夢を見てる。
そのために！
おねえちゃん！

A・C

（I、纏いを脱ぎ姉の姿へ。）

A・B・C・D・E・G・H・I・纏った者

無難も、配慮も徘徊も、
遠慮も尊厳も執着も、
全部、許そう。
だから！
…カツオリ。

A・C

（F、纏いを脱ぎ義兄の姿へ。）

A・C

傷ついても、
涙が止まらなくても、
明日この星が終わっても。
このイロのある記憶のために。
陽気に！
陽気に！

F
A・C

（全員ストップ。）

全員

メリーーー！！！
信号もなく一時停止もない！
だから僕らはぶつかって！
ぶつかってぶつかってぶつかって！！
この交差点を全力で！
すごい偶然ですごい運命で！
出会って！
泣いて！
そして…
家族になるんだ。

（A以外退場。）

（間）

A

…（ゆっくりと回る）
私は、平和です。

（暗転。）

END